

◆優 秀 賞◆

ラストスパートは次のスタート

神明 中学校 三年

二本 柳 蓮

六月末の夏の大会で、僕たちサッカー部のキャプテンは引退した。最後の試合、キャプテンは足がつりそうにながらも、心死に走りつづけていた。声がピッチ上にひびくような大きな声を出して仲間には指示を出していた。最後の最後までボールを追う姿は、まさに「ラストスパート」だった。その姿を見たとき、胸の奥が熱くなった。

結果は逆転負け。けれど、キャプテンのラストスパートは、勝負以上に大切なことを僕に教えてくれた。それは「最後まであきらめない姿勢」が仲間の心を動かすということだ。

キャプテンはいつもそうだった。ミスをした仲間には、「次がある」と声をかけていたり、時には、厳しい言葉で仲間にする気、闘争心を作っていた。技術だけでなく、人を支える、動かす強さを持っていた。僕はその姿を見て真似していいこうと思った。

その試合の当日、ピッチを出るあのキャプテンの姿は何かを語っていた。その後ろ姿を見て気づいた。キャプテンが残したものは、技や結果ではなく、チーム一人一人がチームのために貢献するという「思い」だと感じた。

僕はキャプテンのように一人でチームを引っ張ることはできないかもしれない。けれど三年生としてやらなければいけないことがある。仲間を信じ、声を誰よりも出し、最後の笛がなる一秒まで全力でボールを追いかけて、

走ることだ。その小さな積み重ねがやがて、チームを強くすることだと思う。

サッカーだけでなくこれからの人生でも同じだろう。どんな壁にぶつかっても、キャプテンのラストスパートを思い出し、仲間、自分を信じながら前に進んでいきたい。

この気持ちを胸に抱いて九月のリーグ戦に向けて日々努力し常にあきらめない心を忘れずにこれからやっていこうと思う。

キャプテンのラストスパートは終わりではなかった。僕たちに未来を託す新しいスタートだったのだ。その思いを胸に、僕は仲間と共に走り続けていきたい。

グラウンドの風を感じながら、まだ見ぬ未来というフィールドへ…。